

第八章 鐵道敷設法ノ公布

第一節 鐵道政略ニ關スル議

鐵道廳長官
ノ建議

明治二十三年度末ニ於ケル鐵道ノ延長ハ官私線合計一千三百九十九哩ニシテ敷設確定ノ未成線未測量線ヲ含ムヲ合算スレハ約二千三百哩ニ達シタリ然ルニ國家將來ノ大計上如何ナル程度ニ尙ホ之カ擴張大成ヲ圖ルヘキ乎ニ就テハ政府ニ於テ未タ之カ方針ヲ確定セズ此方針ニシテ確定セザル間ハ將來ニ於ケル官設線ノ建設ニ關シ又ハ私設線ノ許否取扱ニ關シ支障ナキヲ得ザレハ先ツ其根本ヲ定ムルノ必要アリトシ井上鐵道廳長官ハ明治二十四年七月ヲ以テ『鐵道政略ニ關スル議』ヲ建テタリ其趣旨トスル處ヲ約スルニ我國ノ鐵道ハ將來ニ於テ尙ホ三千五百五十哩ノ擴張敷設ヲ必要トシ其工費一哩六萬圓トスレハ二億千三百萬圓ヲ要ス此擴張ハ資本ノ巨額ナルニ相伴隨シテ容易ナラザル大業ナルノミナラズ線路ノ大半ハ收益乏シキモノナルカ故ニ私設會社ノ經營ニ委スルコト能ハズ故ニ政府宜シク自ラ之カ施設ニ當ラザルヘカラズ而シテ其將來敷設スヘキ三千五百五十哩ノ中ニ就テ最モ緊急トスル線路ヲ選擇シ第一期

ニ起工スヘキモノハ八王子甲府間、三原馬關間、佐賀佐世保間、福島青森間、敦賀富山間、直江津新發田間ノ六線ニシテ其哩數約八百哩、工費約三千五百萬圓ヲ要ス、之ヲ七箇年ニ互ル繼續費ト爲シ半途ノ縮弛ヲ防カンカ爲單一ナル豫算案ト爲スニ止メズ、一ノ法律案トシテ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要スヘシ、又鐵道ハ本來國家的事業ナルカ故ニ現在ノ私設鐵道ハ之ヲ買收シテ國有ト爲スノ必要アリ、蓋シ我邦ノ私設鐵道ニシテ計畫ノ目的ヲ誤ラズ能ク敷設ノ功ヲ奏シ運輸ノ利用上稍鐵道ノ面目ヲ具備スト認メラルルモノ太タ尠ク其多クハ未タ満足ノ效果ヲ收メザルモノト謂フヘク而モ是等ノ私設鐵道ハ首尾環聯ヲ要スル基本線中ニ屬スルモノナルヲ以テ今政府ニ於テ之カ擴張ヲ實行セントセハ先ツ之ヲ買收セザルヘカラズ、依テ私設鐵道買收法トシテ議會ノ議ヲ經ルヲ要スト謂フニ在リ、其全文ヲ左ニ錄ス

鐵道政略ニ關スル議

鐵道ハ運輸交通ノ利ヲ發達シテ國防施政上ヨリ殖産興業上ニ至ルマテ社會百般ノ事業ニ便益ヲ與ヘ所謂富強ノ要具開明ノ利器タルヘキモノナルヲ以テ之ヲ布設スル爲メニ放下セル資本ニ對シ收得スル直接利益ノ多寡ハ鐵道

ノ價值ヲ判定スル唯一ノ標準トスルニ足ラズ鐵道ノ開通ニ依テ起ルヘキ間接ノ利益コソ其得失ヲ查覈スル基本トセサルヘカラサルモノタルハ固ヨリ論ヲ竣タス而シテ此間接ノ利益ヲ十分ニ發達スルハ鐵道ヲシテ可及的全國樞要ノ地ニ普及セシメ首尾環聯幹支接續シ其利用ヲ完全ナラシムルニ如クハナキモ亦多辯ヲ要セスシテ瞭然タリ

今本邦ノ大體ニ就キ首線環聯幹支接續略、利用ノ完全ヲ期スヘキ鐵道線路ヲ考察スルニ(北海道ヲ除キ)其延長概計五千二百哩ニシテ既成官私設鐵道及ヒ目下布設竣功ノ見込確定ノ分合計千六百五十哩ヲ控除スルモ今後布設ヲ要スル線路ハ三千五百五十哩ノ延長ニシテ其工費ハ一哩金六萬圓トスレハ合計金二億千三百萬圓ナリ之ニ官私設線千六百哩ニ要セル費額概計金七千八百萬圓ヲ加算スレハ通計殆ント三億萬圓トナル實ニ莫大ナル金額ナリト雖モ之ヲ人口若クハ土地ノ面積等ニ比例シ歐米諾邦ノ鐵道ノ利用十分ニ發達セルモノニ對照スレハ僅カニ其ノ十分乃至二十分ノ一ニ上ラス之ヲ吾國家ノ事業トスレハ國民ノ敢テ負擔スル能ハサルモノト謂フヲ得サルヘシ由是觀之鐵道既成ノ事業ハ僅ニ其全部ノ半途ニモ達セサルモノナレハ國家ノ大

計上漸次其擴張大成ヲ謀ラサル可ラス

此鐵道擴張ノ完成ハ其資本ノ巨額ナルト相伴隨シテ容易ナラサル大業ナルノミナラス線路ノ大半ハ固ヨリ直接ニ資本ニ對スル收益ハ甚タ小額ニシテ專ラ間接ノ便益ヲ主眼トスヘキモノナルヲ以テ之ヲ私設會社ノ經營ニ放任シテ其成功ヲ望ムカ如キコトアラハ所謂木ニ縁テ魚ヲ求ムルノ迂ニ類スルモノト謂フベシ故ニ國家的事業トシテ政府自ラ其施設ノ責ニ當ルヲ當然ノコトナリトス若シ然カラスシテ單一ニ營利ヲ目的トスル私設會社ノ經營ニ委スル時ハ或ル一小局部ニ在テハ稍鐵道ノ便ヲ得ルノ狀ヲ呈スルコトアルモ決シテ首尾環聯幹支接續ノ大成ヲ期ス可カラス況ヤ孤立短線ノ鐵道ハ建設營業共ニ費用ハ之ヲ長大ノモノニ比スレハ常ニ割合ニ多キノ不利ヲ免レシテ一小局部ノ利用スラ亦完全ナルヲ得サルヲヤ之ニ反シテ長大ナル線路ヲ延長合併スレハ其管理經營上總テ供救流用ノ便ヲ得テ甲乙線ノ餘裕ハ以テ丙丁線ノ缺損ヲ補ヒ孤立シテ維持スル能ハサルモノモ亦鐵道タルノ利用ヲ完クスルヲ得ヘシ

前陳ノ如キ理由アルヲ以テ鐵道擴張ノ目的ハ一日モ速ニ之ヲ確定セサル可カラス而シテ之ヲ擴張スルニハ政府自ラ其事業ヲ經營スルノ責ニ當ラサル可ラサルモノトシ先速ニ著手スヘキ事項ヲ掲レハ左ノ如シ

- 一 全國鐵道布設見込線路調査及測量ノ事
- 二 擴張布設スヘキ線路ヲ選定シ其工事ヲ起ス事
- 三 私設鐵道ヲ政府ニ買收スル事

第一項ハ曩ニ廿五年度豫算ヲ提出スルニ當リ既ニ詳悉具陳セルヲ以テ之ヲ略シ第二項ヨリ順次具陳セントス

今後布設ヲ要スル見込線路ハ凡三千五百餘哩ニ互ルト雖モ其中ニ就テ國防上ノ必要ニ依リ布設ヲ緊急ナリト認ムルモノ及ヒ既ニ線路ヲ實測シ若クハ技術者ノ踏査ヲ經テ略其地形ノ險夷ヲ調査シタル等ニ依テ布設工費ハ格外ノ多額ニ上ラス且竣功ノ後幾分ノ收益ヲ得ル見込アリテ維持ニ困難ナキト認ムヘキモノ等ヲ選擇シテ之ヲ第一期ニ起工スヘキ分トシ左ニ列敘スヘシ

八王子甲府線 本線ハ延長凡五十六哩ニシテ東京名古屋ヲ聯絡スヘキ中央鐵道ノ一部分ナリトス抑國防上ノ必要如何ニ依テ布設ノ緩急ヲ考査スル時ハ東京名古屋ノ兩所ヲ聯絡スル中央鐵道ヲ以テ最大緊急ナリトスルハ軍人

社會ノ定論ニシテ輿論モ亦是認スル所ナリ而シテ其線路ノ由ル所ヲ考フルニ信州上田ノ近傍ヨリ松本ニ出テ所謂木曾街道ヲ經テ名古屋ニ達スルモノ或ハ八王子ヨリ甲府ニ出テ夫ヨリ松本ノ平原ニ由リ木曾街道ニ入ルカ又ハ伊那地方ヲ經テ名古屋ニ至ルモノ等ノ數線アリ之カ大體ニ就テ其得失ヲ比較スルニ甲府ニ出テ伊那地方ヲ經過スル線路ハ最モ直線ニ近キモノナレハ距離隨テ最モ短カク且ツ物産豐饒ナル甲信ノ要地ニ運輸ノ便ヲ開通スルモノナレハ鐵道ノ收益モ隨テ少ナカラサルヘク軍事經濟兼用ノ利アリテ將來維持上ノ見込最モ多キモノナルベシ尤モ何レモ地形絶險ナル部分多キカ故ニ精密ナル實測ヲ施シタル後ニ非レハ其線路ヲ確定ス可ラサルハ勿論ナレトモ此中央鐵道ハ前述ノ如ク緊急ナルモノナレハ今ヤ鐵道布設ノ擴張ヲ謀ルノ時機ニ遭遇スルニ於テハ其布設ハ必ス之ヲ決行セサル可ラス依テ茲ニ其一部分トナルヘキ八王子甲府線ヲ掲出シ之ヲ第一期ニ起工スルモノトシ其工費ハ姑ク金三百九十二萬五千圓ト概算セリ尙本議實行ノ日ニ至レハ實地測量ノ上全線路ヲ確定シ工費總額ヲ調査シ之ヲ提出スヘシ

三原馬關線 本線ハ延長凡百五十九哩ニシテ山陽鐵道會社カ布設ノ權利ヲ

得タルモノナレトモ同社ハ三原以西ノ工事ヲ中止セルヲ以テ後條ニ論スル私設鐵道買收策ヲ實施スルモノトスレハ直チニ布設ノ起工ヲ要ス而シテ本線中三原廣島間ハ山陽鐵道豫定線ヲ取ルヲ得ヘキモ廣島以西ハ國防上ノ關係大ナルモノナルニ付已ニ山陽鐵道會社ニ布設ヲ免許スル時ニ當リ其豫定線ハ海岸ニ接近スルヲ以テ更ニ實測ノ上政府ノ認許ヲ經ヘキ旨ヲ令セラレタルモノナレハ固ヨリ別ニ線路ヲ測量シタル後確定スヘキモノトス

佐賀佐世保線 本線ハ延長凡四十一哩ニシテ九州鐵道會社ノ布設免許ヲ得タルモノナリトス然レトモ同社ハ佐賀以西ノ工事ヲ中止セルヲ以テ私設鐵道買收ヲ實行シ得ル上ハ速カニ起工シテ佐世保ノ軍港マテ鐵道ノ便ヲ及ホスハ最モ緊要ナリ

前記三原馬關及佐賀佐世保ノ兩線ハ山陽九州兩私設線買收ヲ實施セサルニ於テハ別ニ兩會社ヨリ該區間工事廢止ノ申請ヲ爲シテ其權利ヲ放棄シタル後ニアラサレハ起工スルコトヲ得サルモノトス

敦賀富山線 本線ハ延長凡百二十六哩所謂北陸線ト稱シ敦賀線ヨリ福井金澤ヲ經テ富山ニ達スルモノトス曩ニ私設ノ發起者アリテ假免狀ヲ下付セラ

レタレトモ到底私設ヲ以テ成功スルノ望ナキノミナラス全國ノ基本線ヲ國有トスル以上ハ本線ノ如キ人口稠密物産饒多ナルモ冬期船舶航行ノ便ヲ缺ク地方ニ通スルモノハ最モ速ニ布設ヲ要スルモノトスヘシ

福島青森線 本線ハ日本鐵道會社白河仙臺間線路ヨリ米澤山形秋田弘前ヲ經テ青森ニ達スルモノニシテ延長凡三百九哩山形鐵道ト稱シ曾テ假免狀ヲ下付セラレタルモノハ本線ノ一部分ナリト雖モ既ニ其有效期限ヲ經過セリ本線ハ北陸線ト稍其趣ヲ同クセル人口稠密土壤肥沃ナル地方ニ運輸交通ノ便ヲ與フルモノニシテ且國防上ニモ日本鐵道會社ノ線ト相待テ極メテ必要ナリトス而シテ本線ハ其地形上其兩端ヨリ起工スルノ便アルモノトス

直江津新發田線 本線ニ付テハ曩ニ廿五年度豫算書提出ニ當リ詳カニ具陳セシ通リナリ

前記各線ヲ布設スルノ外軍事上既成鐵道ノ利用ヲ可成完全ナラシムルノ準備トシテ東京大阪名古屋仙臺等ノ如キ師團所在地若クハ其他分營所在地ニ於テ或ハ軍用停車場ヲ設備シ且ツ之ヲ本線ニ接續スル支線ヲ布設シ或ハ在來ノ停車場ヲ取擴ケ軍隊輸送ノ便ニ供スルハ今後著手スヘキ緊急ノ工事ナリトス現ニ新橋停車場ノ如キ全ク普通ノ旅客乗降貨物積卸ニ對スル便益ヲ謀リ設備セルモノナレハ多數ナル軍隊輸送ヲ要スル場合ニハ大ニ不便ヲ感スルハ固ヨリ當然ナリ故ニ東京近郊適當ノ地ニアル停車場ヲ擴張シテ軍事普通兼用ノモノトスルカ或ハ別ニ軍事專用ノ一停車場ヲ設備スルハ甚々緊要ナリ是等ノ工事ハ第一期擴張布設ト同時ニ起工スルノ目的ヲ以テ其工費ヲ概算スヘシ

右六線ノ哩程及布設工費ヲ概計スレハ左表ノ如シ

第一期線敷設豫算

第一期ニ布設ヲ要スル線路竝ニ工費豫算

線 區	哩 數	工 費	記 事
八王子甲府線	五六 <small>哩</small>	三、九二〇、〇〇〇 <small>円</small>	一哩七〇、〇〇〇圓ノ割但概算中 最モ概略ナルモノナリトス
三原馬關線	一五九	七、一五五、〇〇〇	一哩 四五、〇〇〇圓ノ割
佐賀佐世保線	四一	一、六四〇、〇〇〇	一哩 四〇、〇〇〇圓ノ割
福島青森線	三〇九	一、二、三六〇、〇〇〇	一哩 四〇、〇〇〇圓ノ割
敦賀富山線	一二六	五、六七〇、〇〇〇	一哩 四五、〇〇〇圓ノ割

直江津新發田線	一一〇	三、八五〇、〇〇〇	一哩 三五、〇〇〇圓ノ割
合計	八〇一	三四、五九五、〇〇〇	

外ニ軍用停車場及接續支線建設費四〇五、〇〇〇圓

工費通計金三千五百萬圓

平均一哩工費凡金四萬三千九十圓ニ當ル

前記新設線路ノ内八王子甲府間即チ中央線、福島青森線、三原馬關線ハ所謂縱貫幹線ニシテ軍事上最重至要ナルモノナルヲ以テ到底單線ニテハ十分ニ其目的ヲ達ス可ラス然レトモ當初ヨリ複線ヲ布設セムトスレハ多額ノ資金ヲ要シ經濟上又必スシモ得策ナリトセス依テ此三線ハ用地ノ幅員ハ初メヨリ複線ノ見込ヲ以テ之ヲ買收シ隧道橋梁等ノ如キモ他日複線布設ノ時ヲ待テ別ニ築設スルニ困難ナルモノハ豫メ複線布設ノ計畫ヲ以テ施工シ置クノ見込ナリトス

各線布設總額金三千五百萬圓ハ之ヲ廿五年度ヨリ三十一年度迄七ケ年間毎年度各金五百萬圓ノ割ヲ以テ支出セハ工事施行上最モ便利ナルヘシ尤モ局

部々々工事ノ難易ニ依リ一年度中ノ支出金三四百萬圓ニ止マル時モアルヘシト雖モ之ニ反シテ工程ノ進歩迅速ナレハ一年度中ニ金七八百萬圓ノ支出ヲ要スルコトアルヘキニ付大體前述ノ如ク毎年度金五百萬圓ヲ支出スルモノト豫定シ置キ甲年度ヨリノ繰越金額ハ常ニ之ヲ乙年度ニ支出シ得ルモノトスルヲ要ス

各線ノ延長ハ合計凡八百哩ナルカ故ニ第二年ヨリ漸次竣功スルモノトスレハ毎年平均凡百三十餘哩ノ新線ヲ開業シ得ル割合ナリト雖モ地形ノ險夷工事ノ難易ニ隨ヒ甲年ニ於テハ僅ニ四五十哩ヲ竣功シ乙年ニ於テハ二百哩ヲ開業スルコトモアルヘシ是等工事ノ順序等ハ各線ニ就テ精密ナル實測ヲ施シ詳細ナル設計ヲ定メタル後ニ非レハ豫定シ難キモノトス

此擴張布設ノ資金ハ七ケ年間ニ渉ルノ繼續費トシテ支出セントスルヲ以テ半途ニシテ伸縮張弛ノ異議ヲ生セサル様確乎タル大體ノ計畫ヲ定ムルヲ要スヘシト信ス故ニ單一ナル豫算案ヲ發スルニ止マラスシテ別紙(第一號)ノ如キ一ノ法律案ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ル方可然トノ意見ナリ

次ニ第三項ノ私設鐵道買收ニ就テ詳陳セムニ抑鐵道ハ其性質上郵便電信ノ

私設鐵道ノ買收

二業ト齊シク最モ公共一般ノ用ニ供スルモノニシテ所謂國ノ脈絡ナルヲ以テ營利ヲ主眼トスル私設會社ニ放任セスシテ國家的事業トスルノ最モ其性質ニ適合セルハ殆ント疑ヲ容レサル所ナリ且國防上ニ鐵道ヲ利用スルノ目的ヲ以テ觀察スルトキハ私設ノ此利用ニ適當ナラサルハ別ニ論者アルヲ以テ今茲ニ贅辯ヲ費サスト雖モ輓近歐陸諸邦ニ於テ私設鐵道ヲ買收シ之ヲ國有トシ政府自ラ經營スルモノ多キノ實例ニ徴スルモ蓋シ瞭然タルベシ更ニ進テ吾鐵道ノ現況ニ就テ其實際ノ得失ヲ考覈スルニ吾邦ニ於テ當初計畫ノ目的ヲ誤ラス布設ノ功ヲ竣成シ運輸ノ利用上略ホ鐵道ノ眞面目ヲ具備スルモノト稱スヘキハ官設鐵道ト日本鐵道會社ノ二者アルノミニシテ其他ノ私設鐵道ハ概ネ當初ノ目的ヲ貫徹スルヲ得スシテ或ハ全ク工事ニ著手セサルモノアリ或ハ布設工事半途ニシテ逡巡敢テ進ム能ハサルモノアリ或ハ已ニ大略竣功シテ營業ヲ開クモ收益意外ニ小額ニシテ維持ニ困難スルモノアリ左ニ其實例ヲ舉クレハ總武甲信兩鐵道ノ如キハ未タ工事ニ著手セス大阪鐵道ハ官線ト聯絡ノ工事ヲ起スノ景況ナク關西鐵道ハ桑名線ヲ無期限ニテ遷延シ讚岐鐵道ハ營業ノ收得甚タ少クシテ將來維持ノ見込殆ント立チ難キノ

實況ニシテ殊ニ私設鐵道中最モ重要ナル線路ヲ占有セル山陽九州兩鐵道ノ如キモ前者ハ備後三原以西ノ布設ヲ中止シ後者ハ熊本以南佐賀以西ノ工事ヲ中止スルノ厄運ニ際會セリ故ニ今日ノ勢ヲ以テ見レハ到底是等私設鐵道カ當初ノ目的ヲ貫徹シ鐵道ノ眞面目ヲ具備スルハ殆ント望ミ難キモノナルヘシ然ルニ其線路ハ彼ノ首尾環聯幹支接續ヲ要スル基本線中ニ組入ルヘキモノナルヲ以テ今政府ニ於テ鐵道ノ擴張ヲ實行セントスレハ第一ニ此私設鐵道ヲ利用完全ナルモノトスルノ處分ヲ施サ、ル可ラス而シテ其處分法ヲ求ムルニ蓋シ政府ニ於テ之ヲ買收スルヲ策ノ最モ得タルモノトス

今ヤ私設鐵道會社中ニハ其許可セラレタル線路ニ在テモ先營業上最モ收益多カルヘキ部分ノミヲ布設シ其他ハ布設ヲ見合セントスルモノアルノ實況ナルヲ以テ之ニ接スル線路ニシテ收益一層小額ナルヘキ見込ノモノハ容易ニ布設ヲ企圖スルモノアラサルベシ是レ營利ヲ目的トスル私設會社ニ在テハ固ヨリ當然ノコトナリトス然ルニ政府ニ於テ如此線路ノ延長若クハ聯絡ヲ施行スルモノトセハ此延長若クハ聯絡ニ依リ私設會社既成ノ部分ニ對スル收益ヲ増加スルノ結果アルヲ期スヘキ場合ト雖モ其收益ノ増加ハ單ニ私

設會社ノ所得ニ歸シ政府カ放下スル資本ニ對スル利益ハ甚タ小額ニ止ルベシ是レ小數ナル私設會社ノ株主ニ特殊ノ恩惠ヲ與ヘ國民一般ノ負擔ヲ増加スルノ不公平ナル弊ヲ免レサルモノナリ例ヘハ目下施工中ナル碓氷峠ヲ開鑿シ高崎線ト信越線ヲ接續スル工事ノ如キ其成功ノ日ニ至レハ日本鐵道會社ハ其第一區線ニ於テ收益ノ増加ヲ見ルハ殆ント疑ヲ容レズト雖モ之ヲ碓氷峠線ノ收入トナス可ラサルノ類是ナリ故ニ今政府ニ於テ鐵道ヲ全國ニ普及セシムル爲メニ之カ擴張ヲ謀ルモノトスレハ先既成私設鐵道ト經濟上供給ノ道ヲ得ルノ策ヲ立ツルヲ要スベシ是私設鐵道ヲ買收スヘキ一ノ理由ナリ

鐵道所有主ノ異ナルカ爲メニ旅客貨物ノ運搬上公衆ノ不便ヲ受クルモノ少カラス鐵道營業ノ當局者ニ於テハ固ヨリ可成此不便ヲ避クルニ汲々タリト雖モ所有主ヲ異ニスル以上ハ彼我計算上ノ便ヲ謀リ自然運輸ノ實施ニ種々ノ羈束セラル、所アルヲ免レス例ヘハ大阪岡山間ヲ往來スル旅客カ神戸ニ於テ列車ノ移乗ヲ要スルカ如キ若クハ甲所有主ノ線路ト乙所有主ノ線路トニ跨ル貨物ノ運賃額ハ其距離長遠ニ涉ル場合ニモ同一ナル所有主ノ線路ノ

同距離ニ於ケル賃額ヨリハ高カラサルヲ得サルコトアル如キ實際公衆ニ不便不利ヲ被ラシムルモノト謂ハサルヲ得ス是等ノ支障ハ鐵道ノ利用ヲ擴充スルニ當リ速カニ除却スヘキモノニシテ要スルニ鐵道ノ所有權一途ニ歸スル時ハ自然排除スルヲ得ヘシ是レ私設鐵道ヲ買收スヘキ一ノ理由ナリ線路ノ延長僅カニ數哩ニ過キザルモ既ニ一箇ノ私設會社ヲ獨立セシムレハ鐵道ノ管理經營上ニ係ル費途即チ本社費ト稱スルモノノ如キハ勿論車輛器械ノ修理ニ必要ナル器械場ノ設備保全ニ係ル費用等總テ格外ニ營業費ヲ膨張スルカ故ニ假令收入ハ相當ノ金額ニ上ル線路ト雖モ純益トシテ株主ニ配當スルヲ得ル金額ハ甚ダ減少セサルヲ得ス隨テ旅客貨物ノ賃額ヲ低廉ニシ又車輛其他ニ改良ヲ加ヘテ大ニ公衆ノ便ヲ謀ルカ如キコトハ短線薄資ノ私設會社ニ望ムコト難シ之ニ反シ是等線路ヲ合併シ經濟ヲ合一ニスル時ハ著シク營業費ヲ減省スルヲ得テ自ラ公衆ノ便益ヲ謀リ鐵道ノ利用ヲ完全ナラシムルニ至ラン是私設鐵道ヲ買收スヘキ一ノ理由ナリ

右ノ如ク私設鐵道ノ買收ハ鐵道擴張ノ一著手トシテモ鐵道ヲ國家ノ事業トスル大體上ニ於テモ最モ緊要ナル政略ニシテ殊ニ目下鐵道株式價格ノ低落

ハ之ヲ實施スルノ好時機ナルヘシ而シテ此買收ヲ實施スルニハ左ノ三方法アルベシ

- 第一 鐵道會社ヨリ其鐵道ノ買上ケヲ望ムヲ待チテ政府之ヲ買上クル事
- 第二 法律ヲ以テ政府ニ買上權ヲ有セシメ何時ニテモ買上ケヲ爲ス事
- 第三 政府ト會社トノ間ニ合意契約ヲ結ビテ之ヲ買取ル事

買收方法

第一ノ方法ハ穩當ナルカ如キモ全國ノ鐵道ヲ國有ニ變スルマテニハ幾多ノ年數ヲ要シ加之會社ノ希望ヲ待ツモノナレハ政府ハ豫メ之ニ充ツヘキ金額ヲ準備セサルヘカラス議會アルノ今日ニ於テハ買上金ヲ準備スルハ甚々困難ニシテ支出額ノ未定ナル買上費ヲ豫メ議決スルコトハ議會ニ於テモ亦困難ヲ感スベシ要スルニ此方法ハ議會ニ向テ買上金ヲ請求スヘキ道ナキニ苦ムノ短處アリ若シ又會社ノ申請アルニ當リ其都度議會ノ承諾ヲ求ムル如キ手段ヲ取ルトキハ議會ノ議ハ毎年變換シテ或ハ國有主義ニ傾キ或ハ私設主義ニ傾キ竟ニ鐵道國有ノ大目的ヲ達スル能ハサルノ恐レナキヲ得ス

第二ノ方法ハ簡便ナレトモ法律ヲ以テ權利ヲ壓制スルノ嫌アリ現行私設鐵道條例ニ據レハ鐵道買上權ハ營業期限ノ滿ル後ニ政府之ヲ有スト約束シタ

リ然ルニ今此約束ヲ變シテ何時ニテモ政府ニ買上權アリト定ムルハ法律上ハ不可ナキモ德義上甚々穩當ナラス且又之ヲ爲スモ特約アル日本鐵道會社兩毛鐵道會社等ニ向テハ其權ヲ行フコトヲ得ス依テ此方法ハ採用セサルヲ良トス

第三ノ方法即チ政府ト會社トノ合意契約ヲ以テ買收スルハ前陳ノ故障ナキ最モ穩當ナル道ナリ即チ政府ハ豫メ會社ト内協議ヲ爲シテ假條約ヲ結ビ(其條約文中ニ本條約ハ議會ノ協賛ヲ經テ勅裁ヲ得タル後始メテ有效トストノ一條ヲ置ク)此假條約ヲ以テ一定ノ金額又ハ公債額ノ募集ヲ議會ニ請求スルモノニシテ歐陸諸國ニ於ケル普通ノ私設鐵道買上ノ方法はレナリ然レトモ議會開設ノ日既ニ切迫シタル今日ニ於テ政府ト私設鐵道會社ト内協議ヲ始メ契約書按ヲ草シテ之ニ示シ會社ヲシテ株主ニモ相談セシメ且ツ日限ヲ定メテ諾否ノ回答ヲ爲サシムルハ實際行ハレ難キノ虞アルモノトス

前記三方法ノ内第一項ヲ採用スレハ別紙(第二號)ノ私設鐵道買收條例草案ノ制定ヲ要シ若シ第三項ヲ採用スルヲ得ル時ハ別紙(第三號)乙案ノ制定ヲ要スベシ何レニシテモ買收ノ價格ヲ定ムルハ實際最モ紛雜困難ナル事項ナルヘ

ク現ニ其株式ハ其拂込高ヨリ遙カニ低落セルモノアルヲ以テ是等ハ其時價ト略相齊シキ價格ヲ以テ買收スルヲ適當ナリトスルノ論アルベシト雖モ一旦買收ノ議ヲ決セラルルニ於テハ株式ノ價格ハ昇騰スヘキニ付大體鐵道ヲ國有トスルノ主義ヲ確定シタル上ハ是等モ拂込價格迄ハ支拂ノ決意ナカル可ラス要スルニ買收スヘキ線路ハ即チ布設スル價值アリト認定スルモノナルヲ以テ新タニ布設スルト同一ノ費額マデハ之ヲ支出スルモ敢テ不當ノコトニ非ルヘシ

目今迄ニ布設ノ許可ヲ得タル私設會社ノ總數ハ十七ナレトモ其内日本鐵道會社ハ特別ノ保護アリ水戸鐵道會社ハ既ニ日本鐵道會社ニ其財産ヲ賣渡シ解社セントスルニ際セリ甲信總武豐州參宮ノ四鐵道會社ハ未タ布設ヲ起工セサルカ又ハ僅ニ著手セントスルノミ又北海道炭礦鐵道ハ炭礦事業ト鐵道ト合併セルノミナラス北海道ニ於テハ殖民政略トノ關係アル等一種特色ノモノタリ而シテ阪堺伊豫ノ兩鐵道ハ全ク一小局所ノ運輸ニ供スル目的ノモノニシテ規模狹小ナリ是等ノ事由アルヲ以テ以上九會社ハ姑ク之ヲ除キ其餘ノモノ即チ山陽九州大阪關西兩毛甲武讚岐筑豐興業ノ八私設鐵道會社ノ

鐵道財産ヲ買收スルト假定シ現今マテニ株主ノ拂込タル資金及社債金ヲ概算スルニ合計金二千二百萬圓(別表第四號ノ如シ)ニシテ其線路ハ不日開業スヘキ分ヲ合セ延長五百十哩ナリトス而シテ其營業上收支ノ計算ハ何分開業後日尙淺キヲ以テ確實ナル見込ヲ立ルコト難シト雖モ總體ヲ合併統一シテ營業スルモノトシ之ヲ概算スルニ凡後段ニ掲ルカ如シ

日本鐵道會社ノ線路ハ東北ノ縱貫線ニシテ重要ノ位置ヲ占ムルモノナレハ國有ニ移スノ必要アルハ勿論今ニシテ早ク買收ノ處分ヲ施ササレハ將來福島近傍ヨリ山形秋田ヲ經テ青森ニ聯絡スル線路若クハ其他同社ノ線路ニ聯絡スル鐵道ヲ延長布設スルニ隨ヒ之カ爲メニ生スル同社利益ノ増加ハ唯手ヲ拱シ枕ヲ高フシテ之ヲ收得シ益買收シ難キニ至ルヘシ依テ買收スルモノトシテ考フルニ同社ハ特別ノ保護アルヲ以テ從來其純益配當概ネ一割乃至其以上ニ達スルニ付株金拂込額ヲ以テ買收スルカ如キハ固ヨリ株主ノ應諾スル所ニ非ルヘシト雖モ其特別ノ保護ハ全線ノ通算法ニ非スシテ五區各別ノモノトシ最モ會社ニ利益多キノ規定ニ依ルヲ以テ近來輿論ノ之ヲ攻撃スルモ亦此點ニアリ特許條約ハ政府ヨリ破毀スルノ理由ナキハ無論ナルヘキ

モ會社ノ前途ヲ熟考スレハ德義上ニ於テ會社カ此輿論攻撃ノ衝ニ當ルハ頗ル苦慮スヘキコトニシテ且ツ今ヤ青森迄全線竣功シタルヲ以テ從前ニ比シ補給ヲ受クヘキ資金ハ増加シテ全體ノ資金額凡三分ノ二ニモ當ルヘキカ故ニ純益配當ノ割合自然減少セサルヲ得ス又保護金ハ年限アルモノナレハ若シ拂込額以上ニテ相當ノ價格ヲ定ムルヲ得ル時ハ或ハ賣却スルノ合意ヲナスニ至ルヘキ歟今假リニ此價格ヲ豫定セムニ會社株式五十圓拂込ノモノヲ金八十圓(五十圓ニ對スル八分ノ利子ト八十圓ニ對スル五分ノ利子トハ同ク金四圓トナルカ故ニ此ノ如ク豫定セリ)ノ價格トスレハ總額金千八百萬圓ノ拂込額ハ金二千八百八十萬圓ヲ以テ買收スルヲ得ヘシ此外日光支線及此回同社ガ買受ケントスル水戸線等ヲ合併スレハ大略金三千萬圓ヲ拂渡スモノトスレハ大差ナカルヘシ此買收資金ニ對シ政府カ得ル所ハ今後十五年間會社ニ交付スヘキ補給金凡一千萬圓(一ケ年凡金七十萬圓ノ割)ト營業上ノ純益金毎年凡金百萬圓ニシテ此純益ハ幾分カ遞増ノ見込アルヘキニ付三千萬圓ハ巨額ナルカ如キモ敢テ政府ノ損失ヲ生スルニ至ラサルヘシ

敷設費買收

鐵道擴張ノ爲メニ第一期ニ起工スル布設費及私設鐵道買收費ヲ支辨スルカ

費資金

爲メニ募集ヲ要スル資金總額ハ金五千七百萬圓ナリト雖モ新線布設ニ要スル資金ハ漸次募集スルモノナレハ先初年ニ支出スヘキ金額ハ私設鐵道ノ買收ニ要スル金二千二百萬圓ト新線敷設ニ要スル金五百萬圓ト合計金二千七百萬圓ニシテ爾後六箇年間毎年金五百萬圓ノ支出ヲ要スルモノトス而シテ現在官設線ノ純益金ハ悉皆之ヲ鐵道ニ關スル國債利子ノ支拂ニ充ツルモノトシ之ニ買收スル私設線路及新設スヘキ線路ノ漸次開業スルモノヨリ生スル純益金ヲ加ヘ國債利子ト收支ノ概略ヲ豫計スルニ凡左表ノ如シ

但シ日本鐵道ハ買收豫算ニ加ヘス故ニ同社ト合意ノ協議ヲ遂ケ買收スルヲ得ルトキハ國債ノ總額隨テ増加スルト雖モ前述ノ通り別ニ國庫ノ損失ヲ生セサルヲ以テ此收支ニ直接ノ影響ナシトス

收入之部

年次	既設官線純益	新設線純益	買收線純益	合計
初年	三,〇〇〇,〇〇〇 円	ナシ 円	六〇六,九〇〇 円	二,六〇六,九〇〇 円
二年	三,〇〇〇,〇〇〇	ナシ	六二二,九六九	二,六三三,九六九

年次	三 年	四 年	五 年	六 年	七 年	八 年
舊鐵道公債利子	二,040,200	二,060,600	二,081,200	二,101,000	二,123,000	二,140,270
新鐵道公債利子	一五三,三七五	三〇八,二八四	四六四,七四二	六二二,七六四	七八二,三六七	九四三,五六六
合 計	六一九,〇九九	六二五,二九〇	六三一,五四三	六三七,八五八	六四四,二三七	六五〇,六七九
差 引	二,八一,二六四	二,九四,一七六	三,一七,四九三	三,三六,二六四	三,五四,九六四	三,七三,八五五

支出之部

年次	初 年	二 年	三 年	四 年	五 年	六 年	七 年
舊鐵道公債利子	一,100,000 ^四	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
新鐵道公債利子	一三五,〇〇〇 ^四	一六〇,〇〇〇	一八五,〇〇〇	二10,000	二三五,〇〇〇	二六〇,〇〇〇	二八五,〇〇〇
合 計	二四五,〇〇〇 ^四	二七〇,〇〇〇	二九五,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇	三,四五〇,〇〇〇	三,七〇〇,〇〇〇	三,九五〇,〇〇〇
差 引	十 一五六,九〇〇 ^四	一 六七,〇三1	一 一三七,三三六	一 二〇五,八二四	一 二七二,五〇七	一 三三七,三五八	一 四〇〇,三五六

八 年	1,100,000	二,八五〇,〇〇〇	三,九五〇,〇〇〇	一 二二一,四八五
--------	-----------	-----------	-----------	-----------

備 考

既設官線ノ純益ハ凡一ケ年ニ付金二百萬圓ナレトモ私設線買収及新設線開業ノ爲メ
 ニ一ハ運輸收入ヲ増加シ一ハ營業諸費ヲ省減スルヲ得ヘキヲ以テ其純益ハ第二年ヨ
 リ一ケ年ニ付百分ノ一ツ、遞増スル見込ナリトス
 新設線ハ第二年ニ幾分カ運輸開業ニ至ルヘキモ收支差引ノ上純益ヲ得ルハ第三年ニ
 始マルノ見込ニシテ其純益ハ平均一ケ年ノ開業哩數即チ百二十四哩ノ布設ニ要スル
 資金五百十一萬二千五百圓ニ對スル百分ノ三ト豫算シ此純益モ既設官線ノ如ク毎年
 百分ノ一ツ、遞増スル見込ナリ

但八王子甲府間即チ中央線ハ假ニ收支相償ニ止マリ純益ヲ生セサルモノトセルカ
 故ニ此純益計算中ニ加入セス是レ本項ニ於テ一ケ年開業哩數ヲ百二十四哩ト減算
 セシ所以ナリ又軍用停車場設備ノ工費モ無論純益計算中ヨリ之ヲ控除セリ
 買収線ノ純益ハ總延長五百十哩ノ收入總額ヲ金百六十七萬五千三百五十圓即チ平均
 一哩ニ付金三千二百八十五圓トシ營業費總額ヲ金百六萬八千四百五十圓即チ一哩ニ
 付金二千九十五圓ト算出シタリ而シテ此純益モ既設官線ノ如ク一ケ年百分ノ一ツ、
 遞増スルノ見込ナリ

舊鐵道公債ト稱スルモノハ中山道鐵道公債及鐵道補充公債ニシテ即チ既設官線ニ附

帶スル公債ナルカ其利子ハ前者百四十萬圓後者十萬圓ナレトモ前者ノ分一ヶ年七分ヲ五分ニ整理シ得ルモノト豫計シ利子總額ヲ金百十萬圓ト算セリ故ニ若シ依然七分ノ利子ヲ支拂フモノトスレハ一ヶ年ニ付金四十萬圓ノ差ヲ生スヘシ

新設鐵道公債ト稱スルモノハ今後募集ヲ要スル總額金五千七百萬圓ニシテ初年ハ買收ノ用ニ供スル金二千二百萬圓ト新線布設費ニ充ル金五百萬圓トシテ合計金二千七百萬圓トシ二年ヨリ七年迄新線布設ノ爲メニ年々金五百萬圓ヲ増募スルモノトシテ其利子ヲ計算セリ

本表ノ如ク實施スルヲ得レハ初年ハ鐵道純益ヲ以テ公債ノ利子ヲ支拂ヒタル上尙金十五萬六千九百圓ノ餘剩アリ二年ヨリハ之ニ反シテ毎年不足ヲ生シ八年迄ノ分ヲ加算スレハ金一百六十三萬千八百八十七圓ノ不足ニシテ差引金百四十七萬四千九百八十七圓ノ不足ヲ生スル割合ニシテ十三年目マテニハ尙凡金五十萬圓ノ不足アル割合ナレトモ十四年目ニ至レハ純益ハ公債利子ヲ支拂ヒタル上幾分ノ餘剩アルヘキ額ニ達シ其後尙遞増スルトキハ年々超過餘剩アルヘキノミナラス既設官線ノ如キ往年ノ實驗ニ據ルモ世上一般ノ商況活潑ナルトキハ其純益金二百二十萬圓ニ上ルコトアリシニ拘ハラス收益ハ力メテ多キニ過キサレノ意ヲ以テ豫算シタルカ故ニ實際ニハ全

ク鐵道純益ヲ以テ公債ノ利子ヲ悉皆支拂ヒ得ルノ好結果ヲ得ルモ亦未タ知ル可ラストス

鐵道國有ノ議ヲ決セラルルニ於テハ差向キ私設鐵道條例ヲ改正スルノ必要アルハ別ニ詳説ヲ竣タス依テ別紙(第五號)改正案ヲ調製シテ茲ニ添付セリ終リニ臨ミ尙一言セムト欲スルコトアリ他ナシ果シテ私設鐵道ヲ買收シ同時ニ擴張布設ニ著手スルモノトスレハ其業務タル固ヨリ頗ル巨大ナルヲ以テ煩冗遲緩ノ弊ヲ避ケ簡易敏捷ノ利ヲ謀リ力メテ事業ノ活用ヲ發達スルノ必要ハ今日ニ倍蓰スルヲ以テ現行鐵道廳ノ組織ハ勿論會計上其他ノ規定ニモ多少變更ヲ要スルモノアルヘシ是等ハ本議高裁ヲ經ル上ハ著々之ヲ調査具申スヘシ

以上開陳スル所ハ鐵道ヲ國家ノ事業トシテ漸次全國ニ普及セシメ其利用ヲ完全ナラシムルニ緊要ナル條件ニシテ實ニ永遠ノ大計ヲ確定セムトスルモノナレハ茲ニ別紙五通ヲ付シ進達スルニ付深ク其得失ヲ窮メ高裁アラシムトヲ請フ

明治二十四年七月

鐵道廳長官 子爵 井 上

勝

〔別紙〕

第一號

官設鐵道擴張ニ關スル法律案

鐵道擴張法
律案

- 第一條 日本帝國鐵道ノ幹線ヲ完成スル爲メ政府ハ明治二十五年度ヨリ七年度間ヲ期シテ左記ノ鐵道ヲ布設シ及軍用停車場ヲ設備スヘシ
- 第一 神奈川縣下八王子ヨリ山梨縣下甲府ニ至ル鐵道
- 第二 廣島縣下三原ヨリ山口縣下下ノ關ニ至ル鐵道
- 第三 佐賀縣下佐賀ヨリ佐世保港ニ至ル鐵道
- 第四 日本鐵道會社鐵道白河仙臺間線路ヨリ山形縣下山形秋田縣下秋田ヲ經テ青森縣下青森ニ至ル鐵道
- 第五 官設敦賀線ヨリ福井縣下福井石川縣下金澤ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道
- 第六 新潟縣下直江津ヨリ新發田ニ至ル鐵道及本線ヨリ岐レテ新潟若クハ其近傍ニ至ル鐵道
- 第七 既成官私設線ニ係ル軍事專用ノ停車場及其接續支線
- 第二條 第一條ノ費用ニ充ツル爲メ鐵道公債三千五百萬圓ヲ限リ七年度以内漸次公債證書ヲ發行シテ之ヲ募集スルモノトス
- 第三條 鐵道公債利子ノ割合ハ一ケ年百分ノ五トス

- 第四條 鐵道公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依ル
- 第五條 鐵道公債ヲ以テ募集シタル金額ハ繼續費トシテ七年度間ニ支出スルモノトス但毎年度ノ支出額ハ五百萬圓ニ前年度ノ支拂殘額ヲ加ヘタル高ヲ超過スルコトヲ得ス

第二號

私設鐵道買收條例(甲案)

私設鐵道買
收條例(甲)

- 第一條 鐵道會社ニ於テ其所有ノ鐵道線路ヲ國ノ所有ニ移サンコトヲ請求スルトキハ政府ハ其會社ノ興業費支出額又ハ株券拂込現額以內ノ金額ヲ以テ其鐵道及之ニ屬スル一切ノ財産ヲ買收スヘシ
- 第二條 前條ノ請求アルニ當リ既往三ケ年間ノ株券價格ヲ平均シテ拂込現額ヲ超過スル爲メ株券拂込現額以內ノ金額ヲ以テ買收スルコトヲ得サルトキハ政府ト會社トノ協議ニ依リ買收價格ヲ定ム
- 第三條 第一條ノ買收金額ニ充ツル爲メ國債、萬圓ヲ起ス此國債ハ公債證書ヲ發行シテ買收ヲ約シタル鐵道會社ノ株券ト交換スルモノトス但現金ヲ會社ニ拂渡スノ必要アルトキハ募集スル事ヲ得
- 第四條 第二條ノ買收金額ハ支出ノ必要アルニ當リ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第八章 鐵道敷設法ノ公布

第三號

私設鐵道買收條例(乙案)

私設鐵道買收條例(乙)

第一條 政府ハ左ニ掲クル鐵道會社ト特約ヲ結ヒ其會社ノ所有ニ屬スル鐵道及付屬物件ヲ買收スル爲メ新ニ國債、圓ヲ起ス

何々鐵道會社 何々鐵道會社

第二條 前條ノ國債中、萬圓ハ公債證書ヲ發行シテ左ニ價格ヲ示定シタル鐵道會社株券ト交換スルモノトス

何々鐵道會社株券

何々鐵道會社株券

其他ノ、萬圓ハ公債證書ヲ發行シ内國ニ於テ募集シ、ノ費用ニ充ツルモノトス

第三條 此國債利子ノ割合ハ一ケ年百分ノ五トス

第四條 此國債ニ關シ本條例ニ規定セザル事項ハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依ル

第四號

買收見込ノ鐵道會社株金拂込額及興業費額調書

鐵道會社株金拂込額及興業費額

社名	區間	哩數	株金拂込額	社債	興業費額
九州鐵道會社	門司 熊本	一三六・六一	五,七〇〇,〇〇〇 円	〇	五七,〇〇〇,〇〇〇 円
山陽鐵道會社	鳥栖 佐賀	一四七・六四	七,〇二〇,〇〇〇	一,一六四,〇〇〇,〇〇〇 円	六九四六,五〇〇九二五
讚岐鐵道會社	神戶 三原	一〇・二五	二八四,二五五	二八七,二一八五	二七六,一〇六九〇五
兩毛鐵道會社	丸龜 琴平	五二・二六	一,五〇〇,〇〇〇	〇	一,三七八,四四六八五
筑豐興業鐵道會社	若松 直方及飯塚 伊加里	三四・〇〇	五四二,三三五	二五〇,〇〇〇,〇〇〇	四三三,九八七七七一
甲武鐵道會社	新宿 八王子	二二・七七	八一〇,〇〇〇	〇	七二四,五八四二七七
大阪鐵道會社	湊町 櫻井及四日市 草津	三八・七二	二,〇〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇,〇〇〇	二,〇五〇,〇〇〇,〇〇〇
關西鐵道會社	龜山 桑名	六七・〇四	二,七〇〇,〇〇〇	〇	二,七二八,五三八九六三
計	四日市 桑名	五〇九・六九	二〇,五五六四八〇	一,四九二,七二一,一八五	二〇,二二七,一六五七三六

第五號

私設鐵道條例改正案(略)

私設鐵道買收ニ關スル要領

鐵道廳長官ハ鐵道政略ニ關スル議ヲ建ルト同時ニ該建議ノ摘要並補遺トシテ一書ヲ提出シタリ其要ニ曰私設鐵道買收ニ係ル計算ノ要領ヲ摘記スレハ下ノ

如シ(一)私設鐵道會社總數十七ノ内日本鐵道會社ハ特別保護アルカ爲別段ノ方法ニ據リテ處分スルモノトシ其他モ種々ノ事由アリテ買收見込ヨリ取除キタルモノ八會社アリ、依テ殘餘ノ八會社ニ係ル線路車輛等ノ財産ヲ悉皆買收スルモノトスレハ其資金總額凡金二千三十九萬圓ト爲ル、是即チ買收價格トシテ仕拂ヲ要スルモノトス、而シテ此財産ノ營業收支見込高ハ一箇年收入總額金一百七十七萬三千五百三十五圓、同支出總額金一百九萬二千七百七十八圓ニシテ差引益金六十八萬千三百五十七圓ナリ、故ニ前記買收資金ノ利子ヲ五分トスレハ金三十三萬八千四百四十三圓ハ利子補充トシテ仕拂ヲ要スル年額ナリトス、而シテ鐵道廳ヨリ納入スル官設鐵道益金ハ凡金二百萬圓ノ年額ナルヲ以テ其内ヨリ中山道鐵道及鐵道補充兩公債ノ利子合計金一百五十萬圓ヲ差引クモ其殘額ハ右利子ノ補充ニ十分ナル見込アリ(二)日本鐵道會社資本總額金一千八百萬圓ヲ一株八十圓ノ割ニ引上ケ買收スルモノトスレハ此金二千八百八十萬圓ニシテ外ニ日光線及水戸線モ同時ニ同會社ヨリ買收スルモノトスレハ其價格總計ハ凡金三千萬圓ヲ要スヘシ、而シテ之ニ對シテ政府ノ得ル所ハ凡金一千萬圓(今後十五箇年間會社ニ交付スヘキ補給利子)ト營業純益凡金一百萬圓ノ年額ニシテ

即チ金一千萬圓ヲ差引キタル殘額二千萬圓ニ對スル五分ノ利子ニ當レリ、故ニ政府ニ於テハ差引損失ナクシテ後年鐵道營業上遞増スル利益ハ全ク政府ノ所得トナルヘシ(三)鐵道買收及新線敷設工費ニ充用スル資金ヲ鐵道公債トシテ募集スルニ當リ下ノ如キ二方法ヲ用キルモノトセハ假令利子ノ定率ハ低キモ應募者ヲ増加スルノ效果アリテ或ハ便利ナルヘシト思考セラルルヲ以テ參考ノ爲ニ茲ニ附記ス、其一鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ四トス、但シ鐵道公債ヲ以テ募集シタル資金ハ之ヲ私設鐵道買收及新線路敷設費ニ充用スルヲ以テ是等財産ヨリ生スル益金資本ニ對シ一箇年百分ノ四ヲ超過スルトキハ百分ノ七マテハ其超過額ヲ公債所有者ニ配當スヘシ、其二前項ノ益金一箇年百分ノ七ヲ超過スルトキハ其超過額ヲ以テ元金ノ償還ニ充ツヘシ(四)若シ本議ヲ採用セラレ全國ノ基本線ヲ擧ケテ國家的事業ト爲スノ方針ヲ定ムルニ於テハ之ヲ一時ノ政略タラシメズ、永久不拔ノモノトシ其施行順序等ハ法律ヲ以テ之ヲ制定シ政海ノ波瀾ヲ鐵道事業ニ及ホス無カラシメンコトヲ要スヘシ、而シテ鐵道事業中重要ナル事項ハ軍務財政ノ如キ鐵道ニ關係アル要路ノ人々ヲ以テ組成シタル鐵道會議ナルモノヲ設ケ其裁決ヲ經テ施行スルコトニ定メ其他日常普通ノ

事務ハ鐵道專任ノ當局者ニ於テ處理執行スルモノトセハ可ナラント思考ス〔五〕會計上ノ規定モ現行ノママニテハ計算ノ結果ヲ世界一般ノ鐵道事務者ニ示スモ或ハ解決シ得ザルモノアルヲ免レザルカ故ニ之ヲ鐵道事業ニ適合ス如ク修正スルヲ要スヘシ〔六〕全國ニ渉ル基本線ヲ國家的事業トシテ政府自ラ經營スル以上ハ將來私設ヲ許スヘキ鐵道ハ全ク一小局部特別ノ用ニ供スルモノニ限ルヘキヲ以テ私設鐵道條例ノ如キハ此主義ニ背馳セザル如ク修正スルヲ要スヘシ〔七〕私設鐵道買收ノ議ヲ決セラルルニ於テハ買收ニ關スル順序方法ヲ調査制定シ實際施行ニ支障ナカラシムルノ準備ヲ必要トス然ルニ此コトタル財政及法制上ニ大ナル關係ヲ有シ獨リ鐵道廳ノミ其調査ノ任ニ當リ難キカ故ニ實行ノ内決アルニ至ラハ速ニ大藏省法制局等ヨリ選定シテ委員ヲ設ケ之カ調査ニ從事セシメ且ツ帝國議會ニ提出スヘキ議案ノ如キモ併セテ調製セシムルハ最モ緊要ナルヘシト

內務大臣請
議

明治二十四年十一月十八日品川內務大臣ハ鐵道廳長官ノ提議ニ係ル第一號案、第二號案ニ修正ヲ加ヘ之ヲ新鐵道公債法案、私設鐵道買收法案トシ左ノ如ク閣議ヲ請ヘリ

鐵道政略ニ關スル件

鐵道政略ニ關シ別紙ノ通鐵道廳長官ヨリ上申有之依テ之ヲ稽查スルニ抑モ鐵道ハ軍事上經濟上其他百般ノ關係ニ於テ國有ヲ得策トスルハ今更贅辯ヲ要セサルノミナラス今ノ時ニ當リ大ニ鐵道ヲ擴張シ國內樞要ノ地ハ此利器ヲ以テ之ヲ連絡シ兼テ又現ニ私立會社ノ經營ニ係ル縱貫鐵道ヲ國有ニ移シ以テ其效用ヲ完成セシムルハ最モ須要ノ事項ナリトス依テ該廳提出ニ係ル第一號法案及第二號法案共ニ其大體ニ於テ採用スヘキモノトシ而シテ其第二號法案タル鐵道ノ買收ヲ實行スルノ方法ニ就キ考量スルニ法律ヲ以テ強制ノ買上ヲナスハ其法最モ簡便ナルカ如シト雖モ之カ實行ハ容易ノ業ニアラサルノミナラス政府ハ公義上非難ヲ免レ難キ所尠ナカラサルハ既ニ該廳提議ニ詳悉スルカ如シ故ニ此ノ方法ハ到底之ヲ排斥セサルヲ得サルモノトシ而シテ合意ヲ以テスルニ様ノ方法ニ就キ其得失ヲ考フルニ第三方案タル協議買上ハ妥當ハ則チ妥當ナリト雖モ徒ラニ時日ト煩勞トヲ増シ容易ニ協議ノ決定ヲ得ルコト能ハサルヲ以テ此方法ハ之ヲ實施スルニ困難ナルノミナラス或ハ之ヲ實施スルノ日ナカラントス要スルニ會社ノ請求ヲ待テ買上

ルノ前二者ノ短所ナキニ若カサルヲ信ス依テ鐵道廳起草ニ係ル第一號法案及第二號法案ハ大體之ヲ採ルヘキモノトシ其條目ニ至リテハ理勢ト便宜トニ從ヒ多少修正ヲ加ヘ即別紙天號新鐵道公債法地號私設鐵道買收法ヲ以テ確定セラレンコトヲ欲ス

將タ又私設鐵道條例改正ノ件ハ其改正ヲ要スル各條ニ就キ之ヲ案スルニ其第一條ノ如キハ纔ニ現行條例第一條ヲ解明スルニ過キス夫ノ礦山製造其他工業用等ニ供スル鐵道ニシテ一般運輸營業ヲ兼ネルモノノ如キハ現行條例ノ下ニ在リテ尙ホ之カ布設ヲ見ルヲ得ヘク其第二條乃至第四條ノ如キハ他日商法ノ實施ト共ニ勢ヒ變更ヲ來スヘク第三十五條第三十六條第三十七條ノ追加ノ如キハ之ヲ免許狀ニ掲クルモ尙ホ同一ノ效ヲ保ツヘク其條項ニ至リテモ多クハ現行條例ノ範圍内ニ於テ處理シ得ヘキヲ以テ此際殊更ニ之カ改正ヲナスヲ必要トセサルナリ

依テ參考ノ爲メ鐵道廳ノ意見書ヲ付シ茲ニ閣議ヲ請フ

明治二十四年十一月十八日 內務大臣子爵 品 川 彌 二郎

〔別紙〕

天號 新鐵道公債法〔略〕

地號 私設鐵道買收法〔略〕

閣議決定

該請議ノ件ハ閣議之ヲ可決シタルモ新鐵道公債法案ニ修正ヲ加ヘ即チ公債三千五百萬圓ヲ十箇年間ニ募集スルノ原案ナリシヲ三千六百萬圓ヲ九箇年間ニ募集スルモノトシ又私設鐵道買收法ハ內務大臣請議案ノ主義ヲ變シテ鐵道會社ノ請求ヲ待タズ直ニ協議ヲ以テ買收スルモノトシ十二月十四日ヲ以テ左ノ二法案ヲ第二回帝國議會ニ提出シタリ

兩法案提出

鐵道公債法案

第一條 鐵道公債ハ左ニ記載スル鐵道ヲ敷設シ並ニ軍用停車場及其接續支線ヲ設備スル費用ニ充ツル爲メ三千六百萬圓ヲ限リ明治二十五年年度ヨリ九箇年間ニ漸次募集スルモノトス

- 一 神奈川縣八王子ヨリ山梨縣甲府ニ至ル鐵道
- 一 廣島縣三原ヨリ山口縣下ノ關ニ至ル鐵道
- 一 佐賀縣佐賀ヨリ長崎縣佐世保ニ至ル鐵道
- 一 日本鐵道會社鐵道白河仙臺間線路ヨリ山形縣山形秋田縣秋田ヲ經テ青森縣青森ニ至ル鐵道

一 官設鐵道敦賀線路ヨリ福井縣福井石川縣金澤ヲ經テ富山縣富山ニ至ル鐵道
 一 新潟縣直江津ヨリ新發田ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ新潟若クハ其近傍ニ至ル鐵道

一 既成官私設鐵道ニ要スル軍用停車場及其接續支線

第二條 此公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五トス

第三條 此公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依ル

第四條 此公債ヲ以テ募集シタル金額ハ繼續費トシテ明治二十五年度ヨリ九箇年間ニ支出スルモノトス

私設鐵道買收法案

第一條 凡テ公共ノ用ニ供スル鐵道ハ國ノ所有トスルノ必要ヲ認ムルニ依リ既成私設

ノ鐵道ハ第二條以下ノ方法ニ依リ其會社ト協議シテ漸次政府ニ買收スルモノトス

第二條 私設鐵道ヲ政府ニ買收スルニハ其會社ノ興業費支出額又ハ株券拂込現額ヲ超過セサル價格ヲ以テス

鐵道會社ノ株券前三箇年間ノ價格ヲ平均シ其興業費支出額又ハ株券拂込現額ヲ超過スルカ爲メニ前項制限ノ價格ヲ以テ買收スルコトヲ得サルトキハ政府ト會社トノ協議ニ依リ買收價格ヲ定ム

第三條 私設鐵道買收ノ費用ニ充ツル爲メ政府ハ五千萬圓ヲ限リ鐵道買收公債ヲ起ス

コトヲ得

此公債ハ買收ノ都度之ヲ起シ公債證書ヲ發行シテ買收ヲ約シタル鐵道會社ニ其買收代價トシテ額面價格ヲ以テ之ヲ交付ス

第四條 鐵道買收公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五トス

第五條 鐵道買收公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依ル

鐵道買收法案否決

以上兩法案ハ二十四年十二月十七日衆議院ノ議ニ上リ鐵道公債法案ハ議員武富時敏外十七名ノ特別委員ニ附託セラレ私設鐵道買收法案亦議員松田正久外十七名ノ特別委員ニ附託セラレタリシカ鐵道公債法案ハ特別委員會ニ於テ之ヲ否決スヘキモノトシ私設鐵道買收法案亦否決スヘキモノトセリ而シテ私設鐵道買收法案ハ二十三日ノ議場ニ報告セラレタリシカ特別委員中野武營委員長ニ代テ之カ否決ノ理由ヲ述ヘタリ其要ニ曰政府ハ屢國有民有ノ方針ヲ變スルヲ以テ本案亦確定不動ノ方針ナリトハ信セズ其必ス再ヒ民有ニ轉スルノトキアルヘキヲ信ス抑、原案ノ理由ニ依レハ私設鐵道ハ軍用ニ不便ナリト謂フモ有事ノ際ニ處センニハ徵發令ノ規定アリ平時ニ在リテモ亦特別ノ法令アルヲ

以テ不便ト謂フヲ得ズ、且ツ私設鐵道ハ收益寡ク維持困難ナリト謂フモ斯ル理由ニテ買收スルハ私設會社ヲ偏愛シテ一般國民ノ負擔ヲ重クスルモノナリ、尙ホ國有民有相交錯スルハ不便ナリト謂フモ私設會社ニシテ買收ヲ甘諾セザル場合ニ於テ之ヲ強制スルコト能ハズトセハ此不便ハ依然トシテ除カレズ云々、翌二十四日ノ議場ニ於テ議員石田貫之助ハ特別委員會ノ否決ヲ贊シ本案ニ反對ノ意見ヲ陳ヘテ曰、政府ノ本旨ハ鐵道ハ交通機關トシテ郵便電信ト同一ナルカ故ニ國有タルヲ要スト謂フニ在ルモ郵便電信ハ通信ノ秘密ヲ要素トシ鐵道ニハ此要素ナキヲ以テ同一ト見做スコト能ハズ、又國有民有ノ得失ヲ比較スルニ工事費、營業費共ニ民有ハ國有ヨリモ廉ニシテ貨客取扱亦民有ヲ優トス、且ツ政府ハ今年ニ至ルモ鐵道私設ヲ許可シツツアリ、是レ國有論ノ研究日尙ホ淺キヲ證明スルモノニシテ根據未タ強固ナラズト謂フヘシ、又大藏大臣ノ説明ニ據レハ民有ノ純益ハ平均三分二厘ナリト謂フ、然ルニ發行公債ハ五分利ナレハ一分八厘ノ損失アリ、要スルニ買收ノ理由認メ難シト、斯テ議場ハ遂ニ本案ヲ否決シタリ、而シテ鐵道公債法案ハ未タ特別委員長カ其審査ノ報告ヲ爲スニ至ラズシテ衆議院解散セラレタリ

鐵道公債法案ノ結末

第二節 鐵道敷設法

第三回帝國議會ニ於ケル諸案

明治二十五年五月七日政府ハ第三回帝國議會ニ鐵道公債法案及私設鐵道買收法案ヲ提出シタリ、同日衆議院議員佐藤里治ハ鐵道擴張法案ヲ提出シ十日議員植木志澄、伊藤大八、鹽田與造ハ鐵道敷設法案ヲ提出シタリ、翌十一日ノ衆議院議場ニ於テ政府提出案ハ鹽田與造外十七名ノ特別委員ニ附託セラレ佐藤里治提出ノ鐵道擴張法案、植木志澄等提出ノ鐵道敷設法案亦共ニ同委員ニ附託セラレ特別委員長トシテ佐藤里治選舉セラレタリ、十三日ニ至リ議員河島醇、田中源太郎ハ別ニ鐵道擴張法案ヲ提出シタルヲ以テ亦同一特別委員ニ附託セラレタリ、然ルニ政府及議員ノ提出シタル數箇ノ法案ハ殆ト同一事項ナルヲ以テ特別委員ニ於テ之ヲ審査シタル結果以上ノ數案ヲ折衷綜合シテ新ニ一案ヲ作成スルノ最モ便宜ナルヲ認メ五月二十四日之カ爲起草委員五名ヲ擧ケテ立案セシメ、二十六日及二十七日特別委員會ニ於テ其立案ヲ審査シ之ヲ鐵道敷設法案ト名ケ六月二日ノ議場ニ報告シタリ、然ルニ議員東尾平太郎、石田貫之助等ハ該案ハ提出案ノ修正ニアラズシテ全然別箇ノ法案ナルヲ以テ特別委員會ノ審査權限

鐵道敷設法案

ヲ超エタルモノナリト主張シ議員折田兼至ハ該案ノ線路ハ概ネ未タ測量ヲ經タルニアラズ唯空想ヲ以テ列記シタルニ過キザレハ軍事上及經濟上ニ於テ果シテ必要ノ線路ナリヤ否大ニ疑フヘキモノ無キニアラズ斯ク杜撰ナルモノヲ法律ト爲スヘキニ非ザレハ宜シク之ヲ否決スヘシト論セシモ多數ヲ以テ第一讀會ヲ通過シ四日第二讀會ニ入り紛擾ノ末六日第三讀會ヲモ通過セリ而シテ政府提出ニ係ル私設鐵道買收法案ハ鐵道敷設法案ノ可決ニ由リ無用ニ屬シタルモノナルモ其前同月二日政府ノ要求ニ由リ鐵道公債法案ヲ私設鐵道買收法案ノ前ニ議事ニ附シ其修正案トシテ鐵道敷設法案可決セラレタルモノナレハ順序トシテ私設鐵道買收法案ヲ七日ノ議事日程ニ上セタリシモ其第一讀會ニ於テ議長カ第二讀會ノ開否ヲ問フニ當リ一人ノ起立者ナクシテ否決セラレタリ其前六日衆議院ハ鐵道敷設法案ヲ貴族院ニ送付セシカ貴族院ハ七日其第一讀會ヲ開キ翌八日議員工學博士古市公威外八名特別委員ニ指名セラレ九日議員子爵谷干城委員長ニ古市公威副委員長ニ選舉セラレ其審査ヲ經テ十一日ノ議場ニ報告セラレタリ然ルニ議場ニ於テ議員山川浩等ハ本案ヲ以テ政府提出案ノ修正トハ認め難キモノナリトシ十三日ノ議場ニ於テ子爵會我祐準子爵谷

干城等亦本案ニ反對シタルモ多數ヲ以テ第二讀會ニ移リ第三讀會ヲ經テ可決確定シタリ

鐵道敷設法
公布

是年六月二十一日法律第四號鐵道敷設法公布セラレタリ

鐵道敷設法

第一章 總 則

第一條 政府ハ帝國ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲漸次豫定ノ線路ヲ調査シ及敷設ス
第二條 豫定鐵道線路ハ左ノ如シ

中央線

- 一 神奈川縣下八王子若ハ靜岡縣下御殿場ヨリ山梨縣下甲府及長野縣下諏訪ヲ經テ伊那郡若ハ西筑摩郡ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道
- 一 長野縣下長野若ハ篠ノ井ヨリ松本ヲ經テ前項ノ線路ニ接續スル鐵道
- 一 山梨縣下甲府ヨリ靜岡縣下岩淵ニ至ル鐵道

中央線及北陸線ノ連絡線

- 一 岐阜縣下岐阜若ハ長野縣下松本ヨリ岐阜縣下高山ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道

北陸線

一 福井縣下敦賀ヨリ石川縣下金澤ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ石川縣下七尾ニ至ル鐵道

北陸線及北越線ノ連絡線

一 富山縣下富山ヨリ新潟縣下直江津ニ至ル鐵道

北越線

一 新潟縣下直江津又ハ群馬縣下前橋若ハ長野縣下豊野ヨリ新潟縣下新潟及新發田ニ至ル鐵道

北越線及奥羽線ノ連絡線

一 新潟縣下新發田ヨリ山形縣下米澤ニ至ル鐵道若ハ新潟縣下新津ヨリ福島縣下若松ヲ經テ白河本宮近傍ニ至ル鐵道

奥羽線

一 福島縣下福島近傍ヨリ山形縣下米澤及山形秋田縣下秋田青森縣下弘前ヲ經テ青森ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ山形縣下酒田ニ至ル鐵道

一 宮城縣下仙臺ヨリ山形縣下天童若ハ宮城縣下石ノ巻ヨリ小牛田ヲ經テ山形縣下船形町ニ至ル鐵道

一 岩手縣下黑澤尻若ハ花巻ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一 岩手縣盛岡ヨリ宮古若ハ山田ニ至ル鐵道

總武線及常磐線

一 東京府下上野ヨリ千葉縣下千葉佐倉ヲ經テ銚子ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ木更津ニ至ル鐵道

一 茨城縣下水戸ヨリ福島縣下平ヲ經テ宮城縣下岩沼ニ至ル鐵道

近畿線

一 奈良縣下奈良ヨリ三重縣下上柘植ニ至ル鐵道

一 大阪府下大阪若ハ奈良縣下八木又ハ高田ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和歌山ニ至ル鐵道

一 京都府下京都ヨリ奈良縣下奈良ニ至ル鐵道

一 京都府下京都ヨリ舞鶴ニ至ル鐵道

山陽線

一 廣島縣下三原ヨリ山口縣下赤間關ニ至ル鐵道

一 廣島縣下海田市ヨリ吳ニ至ル鐵道

山陰線

一 京都府下舞鶴ヨリ兵庫縣下豊岡鳥取縣下鳥取島根縣下松江濱田ヲ經テ山口縣下山口近傍ニ至ル鐵道

山陰及山陽連絡線

一 兵庫縣下姫路ヨリ生野若ハ笹山ヲ經テ京都府下舞鶴又ハ園部ニ至ル鐵道若ハ兵庫縣下土山ヨリ京都府下福知山ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道

- 一 兵庫縣下姫路近傍ヨリ鳥取縣下鳥取ニ至ル鐵道又ハ岡山縣下岡山ヨリ津山ヲ經テ鳥取縣下米子及境ニ至ル鐵道若ハ岡山縣下倉敷又ハ玉島ヨリ鳥取縣下境ニ至ル鐵道

- 一 廣島縣下廣島ヨリ島根縣下濱田ニ至ル鐵道

四國線

- 一 香川縣下琴平ヨリ高知縣下高知ヲ經テ須崎ニ至ル鐵道
- 一 德島縣下德島ヨリ前項ノ線路ニ接續スル鐵道
- 一 香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下今治ヲ經テ松山ニ至ル鐵道

九州線

- 一 佐賀縣下佐賀ヨリ長崎縣下佐世保及長崎ニ至ル鐵道
- 一 熊本縣下熊本ヨリ三角ニ至ル鐵道及宇土ヨリ分岐シ八代ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道
- 一 熊本縣下熊本ヨリ大分縣下大分ニ至ル鐵道
- 一 福岡縣下小倉ヨリ大分縣下大分宮崎縣下宮崎ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道

- 一 福岡縣下飯塚ヨリ原田ニ至ル鐵道

- 一 福岡縣下久留米ヨリ山鹿ヲ經テ熊本縣下熊本ニ至ル鐵道

以上ノ線路ニ變更増減ヲ要スルモノアルトキハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ決定ス

ヘシ

第三條 鐵道工事ハ緩急ニ應シテ其ノ期限ヲ數期ニ區分シ每期ノ工事ヲ繼續事業トス

第四條 鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ

第五條 鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トス

第六條 鐵道公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル

第二章 第一期鐵道及公債募集

第七條 豫定線路中左ノ線路ハ第一期間ニ於テ其ノ實測及敷設ニ著手ス

- 一 中央豫定線ノ内神奈川縣下八王子若ハ靜岡縣下御殿場ヨリ山梨縣下甲府及長野縣下諏訪ヲ經テ伊那郡若ハ西筑摩郡ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道

- 一 北陸豫定線ノ内福井縣下敦賀ヨリ石川縣下金澤ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道

- 一 北越豫定線ノ内新潟縣下直江津又ハ群馬縣下前橋若ハ長野縣下豊野ヨリ新潟縣

下新潟及新發田ニ至ル鐵道

- 一 奥羽豫定線ノ内福島縣下福島近傍ヨリ山形縣下米澤及山形秋田縣下秋田青森縣

下弘前ヲ經テ青森ニ至ル鐵道

- 一 山陽豫定線ノ内廣島縣下三原ヨリ山口縣下赤間關ニ至ル鐵道及廣島縣下海田市

ヨリ吳ニ至ル鐵道

- 一 九州豫定線ノ内佐賀縣下佐賀ヨリ長崎縣下長崎及佐世保ニ至ル鐵道及熊本縣下

熊本ヨリ三角ニ至ル鐵道

一 近畿豫定線ノ内京都府下京都ヨリ舞鶴ニ至ル鐵道若ハ兵庫縣下土山ヨリ京都府下福知山ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道

一 近畿線ノ内大阪府下大阪若ハ奈良縣下高田若ハ八木ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和歌山ニ至ル鐵道

一 山陰山陽聯絡豫定線ノ内兵庫縣下姫路近傍ヨリ鳥取縣下鳥取ヲ經テ境ニ至ル鐵道又ハ岡山縣下岡山ヨリ津山ヲ經テ鳥取縣下境ニ至ル鐵道若ハ岡山縣下倉敷ヨリ鳥取縣下境ニ至ル鐵道

以上線路ノ外ニ尙敷設ノ急ヲ要スヘシト認ムルモノアルトキハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ更ニ第一期工事トシ特ニ公債ヲ募集スルコトヲ得

比較線路ハ政府ニ於テ更ニ調査ヲ遂ケ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ決定スヘシ

第八條 第一期鐵道工事ハ起工ノ年ヨリ向フ十二箇年ヲ以テ成效期限トス

第九條 第一期鐵道敷設ノ費用ニ充ツル爲金六千萬圓ヲ限り明治二十五年ヨリ十二箇年間ニ漸次公債ヲ募集スヘシ

第十條 政府ハ第一期ニ敷設スヘキ鐵道線路ヲ實測シ每線路ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ

第三章 私設鐵道ノ處分

第十一條 既成私設鐵道ニシテ第二條ニ依リ敷設スヘキ線路ノ爲買收ノ必要アリト認

ムルモノハ政府ハ其ノ會社ト協議ノ上價格ヲ豫定シ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ

第十二條 私設鐵道買收ノ費用ハ公債ヲ發行シ代價トシテ其ノ會社ニ交付スヘシ

第十三條 豫定鐵道線路中私設會社ニ敷設ヲ許可シタルモノハ其ノ會社ノ全部線路ヲ買收スルカ又ハ會社ノ申請ニ依リ相當ノ處分ヲナシタル上ニアラサレバ之ヲ敷設セ

第十四條 豫定鐵道線路中未タ敷設ニ著手セサルモノニシテ若私設鐵道會社ヨリ敷設

ノ許可ヲ願出ル者アルトキハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第四章 鐵道會議

第十五條 政府ハ鐵道會議ニ諮詢シテ左ノ事項ヲ施行ス

一 鐵道工事著手ノ順序

一 第十條ノ決定ニ基キ鐵道工事ノ都合ニ依リ其ノ都度募集スヘキ公債金額

線路調査

鐵道敷設法第十條ハ政府ニ於テ第一期ニ屬スル線路ノ工費豫算ヲ定メ議會ノ協贊ヲ求ムヘキコトヲ規定シタリ是ヨリ先政府ハ全國鐵道線路調査費ヲ第三回帝國議會ニ要求シ議會ハ三箇年ノ繼續費金五萬四千圓ヲ議決シタリシカ明治二十五年六月鐵道敷設法公布セラレ該法第十條ノ規定ニ應スル爲最モ精密ナル調査ヲ遂クルノ必要アルヲ以テ政府ハ第二豫備金ヨリ五萬二千二百圓ヲ

支出シ全國鐵道線路調査費ト共ニ之ヲ調査事業ニ使用シタリ而シテ同年七月鐵道廳ニ線路取調委員第九章參照ヲ置キ八月鐵道廳定員ヲ改正シ線路調査ノ爲職員ヲ増加シタリシカ翌二十六年二月ニ至リ鐵道敷設法第七條ノ比較線路調査結了シタルヲ以テ線路取調委員ヲ廢シタリ同月政府ハ線路取調委員ノ調査ニ基キ鐵道敷設法第七條ニ依ル第一期豫定線中比較線ヲ決定センカ爲鐵道會議ニ諮詢シ左ノ諸線ヲ採擇シタリ

比較線採擇
諮詢

- 一 北越豫定線ニ在テハ新潟縣下直江津ヨリ新潟及新發田ニ至ル鐵道
- 一 山陰山陽連絡豫定線ニ在テハ兵庫縣下姫路ヨリ鳥取縣下鳥取ヲ經テ境ニ至ル鐵道

一 近畿線ノ内舞鶴ニ至ル豫定線ニ在テハ京都府下京都ヨリ舞鶴ニ至ル鐵道

- 一 近畿線ノ内和歌山ニ至ル豫定線ニ在テハ奈良縣下高田ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和歌山ニ至ル鐵道

- 一 中央豫定線ニ在テハ東京府下八王子ヨリ山梨縣下甲府及長野縣下諏訪ヲ經テ西筑摩郡ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道

比較線決定
法律案未決

明治二十六年二月政府ハ該採擇線ヲ以テ比較線決定案ト爲シ之ニ關スル法律案ヲ第四回帝國議會ニ提出シ同月十六日衆議院ハ該案ヲ特別委員ニ附託シ二十日特別委員長ノ報告アリシモ該案再調査ノ爲次回議會マテ延期スルノ動議成立シ比較線決定案ハ議決ニ至ラズ而シテ次回ノ帝國議會ニ於テ衆議院解散セラレタルヲ以テ二十七年五月政府ハ更ニ比較線決定案ヲ第六回帝國議會ニ提出シタリ(第十章參照)

第三節 鐵道會議

鐵道敷設法ハ其第四章ニ於テ鐵道會議ヲ設定シ政府ノ諮詢ニ應シ鐵道工事著手ノ順序及鐵道公債ノ金額ヲ議定スルモノトセリ之カ爲鐵道敷設法公布ノ日ニ於テ勅令第五十一號鐵道會議規則公布セラレタリ之ニ據ルニ鐵道會議ハ鐵道敷設法ニ掲クル事項ノ外新設鐵道ノ線路及設計並工費豫算私設鐵道買收ノ方法順序汽車發著ノ度數及運賃定率ニ關スル事項技術上ノ規程ニ關スルモノヲ除ク外鐵道運輸規則及鐵道警察規則ニ關スル事項其他內務大臣ノ諮詢スル事項ヲ審議スルモノトセリ而シテ會議ハ議長一人議員二十人臨時議員若干人ヲ以テ組織スルモノトシ內務省及鐵道廳高等官四人陸軍省及參謀本部高等官二人大藏省海軍省農商務省遞信省高等官各一人ハ議員中ニ加フヘキモノトセリ又議員ノ任期ヲ三年トシ議長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充テ會議ニ幹事及書記ヲ置キ議長ノ指揮ヲ受ケ庶務及筆記ニ從事シ幹事ハ奏任官書記ハ內務屬又ハ鐵道廳屬ヲ以テ之ニ充ツルモノトセリ

鐵道會議ハ明治二十五年十二月十三日第一回ノ會議ヲ開キタリ當時ノ議長議

第一回鐵道

會議

會議

員臨時議員及幹事ハ左ノ如シ

議長	參謀次長	陸軍中將	川上操
議員	鐵道廳長	官子爵	井上勝
同	遞信次官	河津祐之	
同	陸軍中將	兒玉源太郎	
同	大藏省國債局長	有島武	
同	農商務省商工局長	齊藤修一郎	
同	遞信省郵務局長	古澤滋	
同	鐵道廳部長	工學博士	松本莊一郎
同	陸軍歩兵大佐	高橋維則	
同	海軍大佐	有馬新一	
同	土木監督署技師	工學博士	石黒五十二
同	從二位子爵	谷干城	
同	從四位子爵	堀田正養	
同	從三位	渡邊洪基	

議員

從四位 川田 小一郎

同

正七位 村野 山人

同

小室 信夫

同

若尾 逸平

同

伊藤 大八

同

佐藤 里治

同

箕浦 勝人

臨時議員

鐵道廳參事官 中根 重一

同

陸軍工兵少佐 山根 武亮

同

陸軍歩兵少佐 山口 圭藏

同

從四位 澁澤 榮一

同

田村 太兵衛

幹事

遞信書記官 田健 治郎

鐵道會議規則改正

明治二十七年八月二十四日勅令第百五十三號ヲ以テ鐵道會議規則ヲ改正シ從來內務大臣ノ諮詢ニ屬セシヲ遞信大臣ニ屬セシメ又從來諮詢事項ノ種類ヲ規

則ニ列舉シタルヲ改メテ『鐵道敷設法第十五條ニ掲クル事項ヲ審議シ及鐵道ニ關スル事項ニ就キ遞信大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申スルモノトス』トシ議員『二十人』ヲ『二十人以内』トシ議員中ニ加フヘキモノノ内『內務省及鐵道廳高等官四人』ヲ『遞信省高等官四人』トシ『遞信省高等官』各一人ヲ『內務省高等官』各一人ニ改メ又議員任期ヲ削除シ幹事ヲ『遞信省高等官』ニ書記ヲ『遞信屬』ニ限リ議長議員幹事手當給與ノ條項ヲ改メタリ是レ曩ニ二十六年十月鐵道廳ヲ鐵道局トシ遞信省ニ屬セラレタルヲ以テ鐵道會議ヲ遞信大臣ノ諮詢機關トシ其他多少ノ改正ヲ加ヘラレタルモノナリトス又二十九年四月拓殖務省設置セラレタルヲ以テ六月二十日勅令第百五十七號ヲ以テ議員『二十人以内』ヲ『二十一人以内』ニ改メ『農商務省』ノ下ニ『拓殖務省』ヲ加ヘラル然ルニ三十年九月拓殖務省廢セラレタルヲ以テ同年十月十四日勅令第三百五十七號ヲ以テ『遞信省高等官四人』陸軍省及參謀本部高等官二人海軍省及海軍軍令部高等官二人內務省大藏省農商務省高等官各一人ハ議員ニ加フヘキモノトスニ改メラル尙ホ四十一年十二月鐵道院設置セラレ内閣總理大臣ニ隸シタレハ同月五日勅令第三百八號ヲ以テ『遞信大臣』トアルヲ『內閣總理大臣』ニ改メ議員ニ加フヘキ『遞信省高等官四人』

ヲ「鐵道院高等官二人、遞信省高等官二人」ニ改メ幹事ハ鐵道院高等官、書記ハ鐵道院書記ヲ以テ之ニ充ツルモノトセリ

第四節 鐵道敷設法公布當時ニ於ケル官私鐵道

鐵道創業時
代終結

鐵道敷設法ノ公布ニ由リ線路系統劃立シ將來ニ於ケル建設ノ方針亦確定シタルヲ以テ鐵道經營ハ果然面目ヲ改メタリ、其施行以後ハ官私鐵道並進ノ時代ニ遷リ創業時代ハ該法施行ノトキヲ以テ終局ヲ告ケタルモノト謂フヘシ、抑鐵道事業ハ明治二年十一月ノ廟議ニ端ヲ發シ翌三年東京橫濱間ニ業ヲ起シ同年京都神戸間建築ヲ令セラレ十一年京都大津間建築ヲ允可セラレ十二年米原敦賀間建築ヲ決セラレ十五年長濱以東ノ建築ニ著手シ十七年延線大垣ニ到達セリ、是ヨリ先十四年日本鐵道特許セラレ十七年其線路ハ高崎ヲ經テ前橋ニ達シタリ、其前年中山道鐵道敷設ヲ令セラレ十八年武豐線、直江津線及高崎橫川間ノ工事ヲ起シタリ、十九年ニ到リ幹線ヲ東海道ニ變更スルノ議定マリ爾來東海道線ノ工事開始セラレ二十一年橫須賀線ノ起工アリ、同年湖東線敷設ノ命アリ、終ニ二十二年七月ヲ以テ東京神戸間全通ノ功ヲ奏セリ、其間私設鐵道續々興リ二十二年度ニ於テ日本鐵道ハ岩切以南及鹽竈線ヲ營業シ、阪堺鐵道ハ大阪堺間、兩毛鐵道ハ小山西橋間、水戸鐵道ハ小山水戸間、關西鐵道ハ草津柘植間、大阪鐵道ハ湊

町柏原間、甲武鐵道ハ新宿八王子間、山陽鐵道ハ神戸龍野間、伊豫鐵道ハ松山三津間、讚岐鐵道ハ丸龜琴平間、九州鐵道ハ博多久留米間、北海道炭礦鐵道ハ手宮幌內間及支線ヲ營業シタリ、二十三年度ニ於テ日本鐵道ハ岩切盛岡間、宇都宮日光間及秋葉原貨物線ヲ新ニ開業シ、水戸鐵道亦那珂川貨物線ヲ開業シ、山陽鐵道ハ岡山ニ達シ、又和田崎貨物線ヲ開キ、關西鐵道ハ四日市ニ至リ、大阪鐵道ハ奈良、高田ニ及ヒタリ、二十四年度ニ於テ日本鐵道ノ線路ハ青森ニ達シ、又水戸鐵道ヲ併合シ、山陽鐵道ハ尾ノ道ニ至リ、關西鐵道ハ龜山津間ヲ竣功シ、九州鐵道ハ門司ヨリ熊本ニ互リ、又佐賀ニ達シ、筑豐興業鐵道ハ新ニ若松直方間ヲ竣功シ、北海道炭礦鐵道ハ岩見澤歌志內間、砂川空知太間ヲ開業シタリ、而シテ二十五年、度ニ在リテ山陽鐵道ハ三原ニ達シ、伊豫鐵道ハ高濱ニ延ヒ、筑豐興業鐵道ハ金田及小竹ニ至リ、北海道炭礦鐵道ハ岩見澤室蘭間及夕張線ヲ、釧路鐵道ハ標茶跡佐登間ヲ開業シ、私設鐵道合計一千三百二十哩ニ上リ、官設鐵道ヲ合スレハ一千八百七十哩ヲ算スルニ至レリ、然レトモ明治二十五年、度以前ニ在リテハ鐵道系統未タ立タズ、從テ起業者ハ線路ノ選擇ニ惑ヒ、政府亦之カ許否ニ踟躕スル所アリシカ、二十四年鐵道廳長官ノ提議ニ端ヲ發シ、遂ニ二十五年鐵道敷設法ノ公布ヲ見ルニ至リ

鐵道史上ノ
新紀元

茲ニ鐵道創業時代ヲ離レテ秩序アル發展ノ第一步ニ進入シ、鐵道擴張ノ面目頓ニ一新スルヲ得タリ、乃チ鐵道敷設法ノ公布ハ鐵道史上ニ於ケル新紀元ヲ劃シタルモノト謂フヘシ

北海道鐵道
敷設法公布

鐵道敷設法ハ北海道ニ就テ規定スル所ナシ、當時北海道ハ鐵道ニ關シ尙ホ調査中ニ屬シタリシカ、明治二十九年ニ至リ初メテ北海道鐵道敷設法ノ公布アリ、爾後官私並進ノ時代ニ入リシモ、其以前ニ在リテハ明治十三年ノ開業ニ係ル官設鐵道ハ二十二年北海道炭礦鐵道會社ニ拂下ケラレ、爾來該會社之ヲ延長シ、二十五年、度ニハ其開業線二百四哩ヲ算シ、外ニ釧路鐵道アリテ二十六哩ヲ營業シ、乃チ北海道ハ全ク私設鐵道ノ領域ニ屬シタリ

明治二十五
年度ノ官私
鐵道哩數

鐵道敷設法公布ノ年度、即チ明治二十五年、度ヲ以テ官私鐵道ヲ概括スルニ、本州ニ在リテハ官設鐵道開業線五百五十哩ニシテ、私設鐵道ハ九百十哩ニ上リ、四國ニ在リテハ私設鐵道十六哩、九州ニ在リテハ同一百六十二哩、北海道ニ在リテハ同二百三十一哩ニシテ、此外私設鐵道未成線ハ本州ニ在リテ四百十八哩、四國ニ在リテ四哩、九州ニ在リテ一百八十六哩ヲ算シタリ

鐵道一千哩
祝賀會

開業鐵道ノ哩數ハ明治二十二年ニ於テ一千哩ヲ超ヘタリ、依テ同年七月十日ヲ

以テ日本、阪堺、水戸、兩毛、甲武、大阪、山陽、讚岐等ノ各鐵道代表者及關係者名古屋ニ相會シ鐵道一千哩祝賀會ヲ開キタリ、席上鐵道局長官ノ演說、日本鐵道會社々長ノ祝詞アリ、會者約一百名ヲ算シタリ

官私鐵道統計

明治二十三年度以降三箇年度ニ於ケル官私開業鐵道ノ營業狀態ハ左表ニ示スカ如シ

官私鐵道線路停車場車輛建設費

年 度	開業線路		停車場	車 輛			建 設 費
	私	官		機關車	客 車	貨 車	
明治二十三年度	計	私 官	計	私 官	私 官	計	私 官
	五五〇・四九	八四八・四三	一一五	一一四	六二二	一、四六六	三二、七六〇、八四一
	一、三九九・二	一、六五〇・四九	一七五	一四〇	六〇五	一九二二	三三、八二五、七九五
	五五〇・四九	一、七六〇・九	二九〇	二五四	一、二二七	三、三八七	六六、五七六、六三六
同 二十四年度	計	私 官	計	私 官	私 官	計	私 官
	一一七	二二〇	一一七	二二四	六二七	一、六八五	三四、二四一、五〇四
	一一七	三三〇	二四八	一六九	六八五	二、四四五	四四、〇六一、六二三
	一一七	三三〇	二四八	二九三	一、三〇二	四、一三〇	七八、三〇三、一二七
同 二十五年年度	計	私 官	計	私 官	私 官	計	私 官
	一一七	二四八	三六五	一八五	七三九	二、八一九	三五、四一八、九九七
	一一七	二四八	三六五	一八五	七三九	二、八一九	四七、五〇八、三〇三
	一一七	二四八	三六五	一八五	七三九	二、八一九	八二、九二七、三〇〇

官私鐵道運輸數量營業收支

年 度	運輸數量		營業收入		營業費		益 金
	私	官	私	官	私	官	
明治二十三年度	計	私 官	計	私 官	計	私 官	計
	二、二六五、三八三	二、五七五、二四七	六七一、五六一	八八八、六四五	四、三三三、八〇四	二、〇〇一、二七三	二、二二二、五三一
	二、二八四、〇六三	二、五七五、二四七	八八八、六四五	一、五六〇、二〇六	七、四九五、一四一	一、五五一、一一四	一、六三〇、二二三
	一一、七八七、九一三	一、三九八、〇三五	八〇六、五一	四、一一〇、一四一	二、四二六、九〇〇	一、六八三、二四一	三、八四二、七五四
同 二十四年度	計	私 官	計	私 官	計	私 官	計
	二、五七五、二四七	二、五七五、二四七	一、二六九、四九八	四、三三〇、四六	二、一九七、八八三	二、一六八、三三	二、一六八、三三
	二、五七五、二四七	二、五七五、二四七	一、二六九、四九八	四、三三〇、四六	二、一九七、八八三	二、一六八、三三	二、一六八、三三
	二、五七五、二四七	二、五七五、二四七	一、二六九、四九八	四、三三〇、四六	二、一九七、八八三	二、一六八、三三	二、一六八、三三
同 二十五年年度	計	私 官	計	私 官	計	私 官	計
	二、五七五、二四七	二、五七五、二四七	一、二六九、四九八	四、三三〇、四六	二、一九七、八八三	二、一六八、三三	二、一六八、三三
	二、五七五、二四七	二、五七五、二四七	一、二六九、四九八	四、三三〇、四六	二、一九七、八八三	二、一六八、三三	二、一六八、三三
	二、五七五、二四七	二、五七五、二四七	一、二六九、四九八	四、三三〇、四六	二、一九七、八八三	二、一六八、三三	二、一六八、三三

日本鐵道史 上篇終